

# 近代デジタルアーカイブでたどる 土木という言葉 (修正版)

公益社団法人土木学会  
社会コミュニケーション委員会幹事長  
(前)土木広報アクションプラン小委員会幹事  
小松 淳 (日本工営株式会社)

# 「土木」という言葉の使われ方の歴史 を調べるために

- 国立国会図書館の「近代デジタルライブラリー」、国立公文書館のデジタルアーカイブをはじめとするインターネット上のデジタルアーカイブの整備が進んでいる。
- 明治維新当時からの近代書籍や文書の書誌情報が検索できて、ページごとのデジタル画像が容易に閲覧できる。
- 群書類従、故実叢書、漢籍国字解全書のように近世・近代に集成された全集を通じて古典にあたることができ、早稲田大学古典籍総合データベースのように直接古典を対象にするものもある。
- 古事類苑全文データベースや中国哲学書電子化計画など全文電子化プロジェクトがある。

# 主に利用したデジタルアーカイブ等

- 国立国会図書館近代デジタルライブラリー  
<http://kindai.ndl.go.jp/>
- 国立公文書館デジタルアーカイブ  
<http://www.digital.archives.go.jp/>
- 早稲田大学古典籍総合データベース  
<http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/>
- 和英語林集成デジタルアーカイブス  
<http://www.meijigakuin.ac.jp/mgda/waei/>
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合検索システム nihuINT <http://int.nihu.jp/>
- 中国哲学書電子化計画 (Chinese Text Project)  
<http://ctext.org/>
- Internet Archive <https://www.archive.org/>

言語(Language): 日本語 [よくあるご質問](#) [ヘルプ](#)

# 近代デジタルライブラリー

Digital Library from the Meiji Era

国立国会図書館

明治以降に刊行された図書・雑誌のうち、インターネットで閲覧可能なデジタル化資料を公開しています。

お探しの作品、作者、テーマなどを入力してください

検索

▶ テーマ検索

日本十進分類法  
(NDC)で検索します

▶ 詳細検索

項目ごとに条件を  
指定して検索します

## 資料あれこれ

近代デジタルライブラリーで提供している本の一部をテーマごとに紹介します。

[資料あれこれへ](#)



## 他のデジタル化資料

近デジ利用者アンケート  
実施中(外部サイト)

国立国会図書館  
デジタルコレクション

古典籍資料



歴史的音源



新聞(石巻日日新聞)



官報



博士論文

博士論文

憲政資料



日本占領関係資料



国立国会図書館内でのみ閲覧可能な  
図書・雑誌を含め、様々なデジタル資  
料を一括で検索するには、[国立国会  
図書館サーチ](#)をご利用ください。

## お知らせ

2014-09-09

著作者情報公開調査を実施しています。著作者様のご連絡先等が不明な著作者に  
関する情報をお寄せください。

期間:平成26年9月9日(火)から同年10月8日(水)まで

[著作者情報公開調査のページ](#)

2014-08-13

「科学技術文献速報」約3,000点を科学技術振興機構(JST)のご協力によりインターネ  
ット公開しました。

著作権処理を完了した約120点をインターネット公開しました。

[新規公開資料リスト\(CSV形式 ShiftJIS\)](#)

2014-06-23

利用者アンケートを実施しています。ぜひご意見をお寄せください。  
ご協力をよろしくお願いいたします。

(実施期間:2014年6月23日～9月26日)

[アンケートページへのリンク\(外部サイトが開きます\)](#)

2014-05-01

5月1日(木)から、国立国会図書館ウェブサイトのコンテンツのうち、著作権保護期間

← → C ctext.org/pre-qin-and-han?searchu=土木

Chinese Text Project

Search details:  
 Scope: Pre-Qin and Han Request type: Paragraph  
 Condition 1: Contains text "土木" Matched:31.  
 Total 29 paragraphs. Page 1 of 3. Jump to page 1 2 3

〈先秦兩漢 - Pre-Qin and Han〉 [Related resources](#)

〈儒家 - Confucianism〉 [Related resources](#)

〈說苑 - Shuo Yuan〉 [Western Han (206 BC - 9)] Liu Xiang [Books referencing 《說苑》](#) [Library Resources](#)

〈貴德〉 [Books referencing 《貴德》](#) [Library Resources](#)

28 貴德: 智襄子為室美, 土茁夕焉, 智伯曰:「室美矣夫!」對曰:「美則美矣, 抑臣亦有懼也。」智伯曰:「何懼?」對曰:「臣以秉筆事君, 記有之曰: 高山浚源, 不生草木, 松柏之地, 其土不肥, 今土木勝, 人臣懼其不安人也。」室成三年而智氏亡。

〈韓詩外傳 - Han Shi Wai Zhuan〉 [Western Han (206 BC - 9)] [Books](#)

中国哲学書電子化計画で「土木」を検索して、底本を電子図書館で閲覧

Chinese Text Project

Library -> 說苑 -> 說苑二 < 69 / 158 >

規反而殺智伯于師遂滅智氏  
 智襄子為室美士茁夕焉智伯曰室美  
 矣夫對曰美則美矣抑臣亦有懼也智  
 伯曰何懼對曰臣以秉筆事君記有之  
 曰高山浚源不生草木松柏之地其土  
 不肥今土木勝人臣懼其不安人也室  
 成三年而智氏亡

貴德 (說苑)

< 貴德 > 36 / 37 > [復原](#)

Digital edition: 《說苑·貴德》

《四部叢刊初編》 volumes 327~332。  
 景平湖葛氏傳樓堂藏月鈔本  
 本書二十卷



# 最初は国語辞典を、続いて漢和辞典 を調べていたら

- 2014年5月3日～6日の4日間、自宅のデスクトップPCからインターネット上で近代辞書における「土木」とその関連用語の語義と用例、出典等を採集、整理していたところ、国語辞典で「土と木」の初出らしきを見つけ、その後、確認のために漢和辞典も調べていくと・・・
- 「つちときと」の初出と同時に、これまで謎とされていた「築土構木」の初出と推察できる辞典が国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで見つかった。

# 明治36年(1903年)に三省堂発行の「漢和大字典」

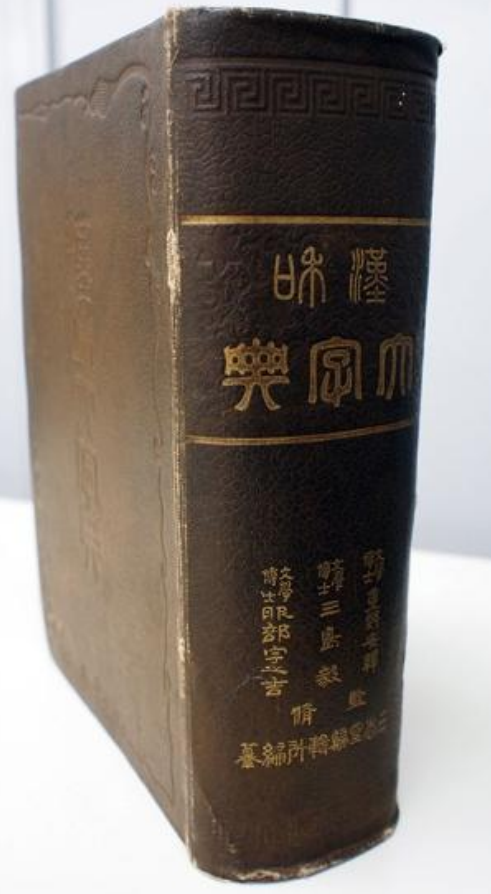
發行所 三省堂書店  
 東京市神田區裏神保町一番地

復 不 許 製

明	明	明	明	明	明	明	明	明	明
治	治	治	治	治	治	治	治	治	治
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	九	八	六	六	六	六	六	六	六
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
三	一	五	七	二	二	二	二	二	二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
廿	十	十	四	廿	十	八	二	八	二
八	五	八	八	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
六	五	四	三	再	發	發	發	發	發
版	版	版	版	版	行	行	行	行	行
發	發	發	發	發	行	行	行	行	行
行	行	行	行	行	行	行	行	行	行

監修者 重野安毅  
 監修者 三島毅  
 編輯者 服部宇之吉  
 印刷者 三省堂印刷部  
 東京市神田區裏神保町一番地

漢和大辭典與附



貴族院議長學習院長公爵近衛篤磨序  
 貴族院議員文學博士重野安毅序

吳世倫題

# 漢和大字典

貴族院議員文學博士重野安毅  
 東京大學教習文學博士三島毅監修  
 北京大學教習文學博士服部宇之吉

三省堂編輯所編纂





# 三省堂辞書の歩み「漢和大字典」から

<http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/wp/2013/01/16/三省堂辞書の歩み-漢和大字典/>

- 本書は、日本最初の漢和辞典である。これ以前の漢字の字典は、和玉篇(わごくへん)と言われるもので、漢字の音や訓を羅列しただけだった。わずかに熟語を載せた例もあったが、語義分類をしたり、出典を載せたりしたものはなかった。三省堂編輯所の斎藤精輔は、英和辞典を手本にして漢語と和語の画期的な対訳辞典を創出したのである。
- 収録した漢字は3万0732字、熟語は5万4862語。当時、活字メーカーが標準的に製造していた漢字は1万字ほどだから、三省堂印刷部の存在が大きかった。現在でも、『大漢和辞典』(大修館書店)は5万字あるが、1冊ものの漢和辞典では1万字前後が普通で、多くても2万字程度。そのためか、本書の熟語にはかなり小さな活字が使われている。
- 前付には「索引」(部首順)、「検字」(画数順)、「弁似」を載せ、後付には「国訓」「国字」「篆文」を載せた。本文はほとんど現在の漢和辞典と同じ形式ながら、大きく違う点がふたつある。ひとつは、音や韻が異なっていて字義も異なる場合、同じ親字を載せて区別していること。もうひとつは、熟語は末の字が親字と同じものを掲載していることである。この熟語は、中国の『佩文韻府』という漢詩のための韻書を手本にしている。
- 実質的な編集は、斎藤と同郷で読売新聞社にいた足助直次郎を招き入れ、深井鑑一郎・福田重政とともにあたらせた。そして、監修と編纂の名義を区別したのも最初だった。

# 斎藤精輔：辞書生活五十年史、図書出版社、1991年 (底本は私家版「辞書生活五十年史」、1938年)から

- 談前に遡りて、明治二十九年春頃のことなり、三省堂において、漢和字典発行の希望起り、亀井氏は余にその編纂者を求むべしと下命せられたれば、余は千思万考の結果、余の親友にして同郷人たる足助直次郎氏こそ然るべしと定義せしに、亀井氏は同氏についてその意中を探り見るべしとの事なりしをもって、余は一日同氏を寓居に往訪したり。時に同氏は中井錦城氏の紹介にて読売新聞社に入り、その記者たりしが、余の来意に対し、中井氏さえ同意ならば、同社を辞して貴意に必ずべしとの事なりし故、余はただちに中井氏を訪問し、足助氏に漢和辞典編纂を依頼したる旨を告げしに、氏は膝を叩いてこれを賛し、ただちに承諾の旨を告げられしをもって、余は帰りてその趣を亀井氏に告げぬ。
- 時に余思えらく、従来の漢和辞書は、漢字の下にその訓み方を付するに過ぎず、今日の時世に於いてはかかる簡単なる仕組を一擲して、今一層の進境を開拓するの必要あらん、よろしく西洋辞書流、すなわちウェブスター大辞書風に、各漢字に適當なる説明をあたうるこそ可なるべしと。すなわち足助氏に説いてこの方針にて歩武を進めしめ、その事業は着々として進行せり。西洋辞書流に漢字に説明を下したるは、けだし画期的空前の事に属し、この式を漢和辞書に試みたるは実に三省堂をもって嚆矢とす。東京府立第四中学校長深井鑑一郎氏は、痛くこの案に驚嘆し、自らもこの事業に携わり、もって足助氏を援助すべき旨申出でられ、その学友、福田重政氏と共に、毎日余の三省堂編輯所に来り、孜々として足助氏の稿に加筆せられ、その完成の日までこれに努力を傾注せられたり。

# 「漢和大字典」の「土木」を評価すると

- 出典と用例が不正確
  - (い)つちときと。○〔後漢〕「土木形體，不自藻飾」
  - (い)つちときと。○〔晋書・嵇康伝〕「而土木形骸，不自藻飾」
- 意味が不正確
  - (い)つちときと。
  - (い)からだを土と木のようにすること。飾らないこと。
- 「築土構木」は成語ではない
  - (ろ)建築。○〔淮〕「築－構－」
  - 中国語本来の「土木」の意味であったとしても用例として不適切。「築土」「構木」それぞれは多数存在するが、「築土構木」は淮南子のこの一例のみ(孤例である)。
- 「土木」の先例として100年後まで影響を残した
  - 辞典として商業的に成功したためにその後参照され「土木とは土と木のこと」「築土構木が土木の語源」のもとになった

# 「漢和大字典」の監修者と編集者

- 監修者
  - 重野安繹(1827～1910)当時76歳、日本初の文学博士
  - 三島毅(1831～1919)当時72歳、二松学舎創立者
  - 服部宇之吉(1867～1939)当時36歳、北京大学主任教授
- 編集者
  - 三省堂の斎藤精輔(1868～1937)当時35歳
  - 足助直次郎(～1942、元読売新聞社記者、斎藤精輔と岩国で同郷)
- 編集協力者
  - 深井鑑一郎(1865～1943、東京府立第四中学校校長)当時38歳
  - 福田重政(深井鑑一郎の学友)



戸山高校構内の深井鑑一郎先生像  
出典：四中・戸山高校同窓会ホームページから

# 監修者と編集協力者： 東京大学文学部古典講習科漢書課の教師と生徒

16 | 東京大学古典講習科漢書課前期の卒業記念写真（明治20年7月9日）中洲58歳



- 監修者2名が教師
  - 2 三島毅（中州）
  - 6 重野安繹（成斎）
- 編集協力者2名が生徒
  - 20 深井鑑一郎
  - 21 福田重政



- |        |           |        |        |           |           |           |
|--------|-----------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|
| ①大澤清臣  | ②三島 毅（中州） | ③小中村清矩 | ④加藤弘之  | ⑤南摩綱紀（羽柴） | ⑥重野安繹（成斎） | ⑦川田 剛（興口） |
| ⑧萱問保蔵  | ⑨安原富次     | ⑩堀捨次郎  | ⑪池上幸次郎 | ⑫岡田正之     | ⑬外山正一     | ⑭島田重禮（源村） |
| ⑮中村正直  | ⑯渡邊洪基     | ⑰末永 允  | ⑱今井恒郎  | ⑲岡田文平     | ⑳深井鑑一郎    | ㉑福田重政     |
| ㉒橋本好蔵  | ㉓福島 操     | ㉔与野山熊男 | ㉕林 泰輔  | ㉖鈴木栄次郎    | ㉗宮川熊三郎    | ㉘渡辺恕之允    |
| ㉙花輪時之輔 | ㉚日置政太郎    | ㉛松本胤恭  | ㉜熊田謙次郎 | ㉝瀧川亀太郎    | ㉞松平良郎     | ㉟田野泰助     |

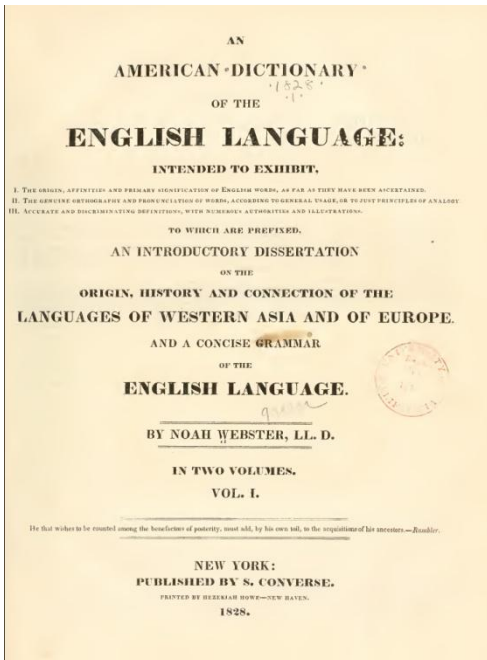


発行年	辞書名	出版社	編集者	土木(一)	土木(二)	土木(三)	土木(四)
1903年(明36)	漢和大字典	三省堂	重野安繹、三島毅、服部宇之吉	つちときと。 【(後漢)一形體、不自藻飾】	建築。 【(准)築一構一】		
1912年(明45)	新訳漢和大辞典	六合館	浜野知三郎	家屋・堤防・道路・橋梁などの工事。ふしん。 【淮南子に「築土構木」】			
1915年～1919年(大4～8)	大日本国語辞典	富山房・金港堂	上田万年・松井簡治	つちと木と。 【曾我扇八景上「内に土木の気を養ひて、外青黄の色なく」】	道路・堤防・鉄道・橋梁等に関する工事。 土木工事。 【内務省官制第一條「土木衛生地理(中略)に関する事務」】		
1923年(大12)	字源	北辰館	簡野道明	ふしん、家屋・堤防・道橋などの工事。 【晋語「智襄子為室美、土茁曰、美則美矣、抑一一勝、臣懼其不安人也」】	身なりを飾らざる義。 【晋書、嵇康伝「土木形骸、不自藻飾」】		
1925年(大14)	大漢和辞典	春秋書院	服部宇之吉	つちときと。 【用例なし】	やつくり。ふしん。建築。 【(淮南子)築土構木。】	いへ・はし・堤防・道路などの工事。土工。土巧。土作。 【用例なし】	うはべを飾らぬ意をいふ。ぶこつ。粗朴。 【(晋書)一一形骸。】
1926年(大15)	明解漢和大字典	石塚松雲堂	土屋鳳洲	家屋の建築・橋梁の架設・道路の開鑿修築 其他すべて木材土石等使用する工事。 【用例なし】	土と木と。又、外貌を飾らぬこと。 【用例なし】		
1927年(昭2)	明解漢和辞典	三省堂	宇野哲人	【要調査】			
1935年(昭10)	大言海	富山房	大槻文彦	つち、きと。 【曾我扇八景(寶永、近松作)上「内に土木の気を養ひて、外、青黄の色なく」】	堤防、溝渠、道、橋ナドノ普請。作事。 【唐書、百官志「工部郎中員外郎各一人、掌城地土木之工役」】	身ナリヲ飾ラザルコト。粗野。 【晋書、嵇康伝「土木形骸、不自藻飾」】	
1936年(昭11)	大辞典	平凡社	石川貞吉ほか	家屋の建造。やつくり。ふしん。 【國語・晋語「智襄子為室美、土茁曰、美則美矣、抑土木勝、臣懼其不安人也」】	築堤架橋。道路開削等の工事。土工。 【唐書・百官志「工部郎中員外郎各一人、掌城地土木之工役」ほか】	身なりを飾らぬ意。粗野。 【晋書・嵇康伝「土木形骸不自藻飾」】	つちと木と。 【曾我扇八景・上〔江戸〕寶永「内に土木の気を養ひて、外青黄の色なく」】
1984年～1986年(昭59～61)	大漢和辞典 修訂版	大修館	諸橋轍次	家づくり。ふしん。又、建築・架橋・築堤・道路開削等の工事。 【(國語、晋語九)今土木勝、臣懼其不安人也。〔列子、天瑞〕禾稼、土木。〔後漢書、郎顛傳〕土木營建。〔北史、齊後主紀〕詔、土木營造、金銅鐵諸雜作、一切停罷。】	飾らないこと。ぶこつ。粗野。 【(晋書・嵇康伝)嵇康、字叔夜、有風儀、而土木形骸、不自藻飾。】	堡の名。唐、置く。察哈爾省懷來県の西。もと統漢鎮といふ。土木はその訛。 【〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、延慶右衛〕土木驛堡、衛西南二十五裏、地界相錯、為往來之孔道、本名統漢鎮、唐末高開道據懷戎時所置、後訛為土木、永樂初、置堡于此。】	
2002年(平14)	日本国語大辞典 第二版	小学館	松井栄一ほか	土と木。比喩的に、飾らない粗野で素朴なものをもいう。→ 形骸(けいがい)を土木にす。 【* 大観本謡曲・谷行(1546頃)「谷行に飛びかけて、上に蓋へる土木盤石、押し倒し取り払って」* 浄瑠璃・曾我扇八景(1711頃)上「内に土木の気をやしなひて、外青黄の色なく」ほか】	木材、鉄材、土石などを使ってする建物、道路河川、港湾などの工事。土木工事。 【* 権記-長保四年(1002)三月一九日「仍營造之間、重制過差、不費土木之巧力、可減柱梁之高大」* 江都督納言願文集(平安後)一・白河院北斗曼荼羅堂「土木尽美。成之不日」ほか】		
2006年(平18)	大辞林 第三版	三省堂	松村明	土と木。 【用例なし】	土石・木材・鉄材などを使用して、道路・橋梁(きょうりょう)・鉄道・港湾・堤防・河川・上下水道などを造る建設工事の総称。〔従来は家屋などの建築を含んだ〕→ 建築【用例なし】		
2008年(平20)	広辞苑 第六版	岩波書店	新村出	土木工学、また、土木工事の略。※脚注1 【用例なし】			
2010年(平22)	明鏡国語辞典 第二版	大修館	北原保雄	土と木。 【用例なし】	土石・木材・鉄材などを使って道路・鉄道・河川・堤防・橋梁(きょうりょう)・港湾などを建設する工事。「一建築[工学]」 【用例なし】		
2012年(平24)	デジタル大辞泉	小学館	松村明(監修)	土と木。 【用例なし】	「土木工事」の略。※脚注2【用例なし】		

脚注1: 土木工学=工学の一部門。道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・発電水力・灯台・港湾・国土都市計画・環境計画・景観などの施設に関する歴史・理論および実際を研究する学問。土木工事=道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石・コンクリートなどを使用する工事。

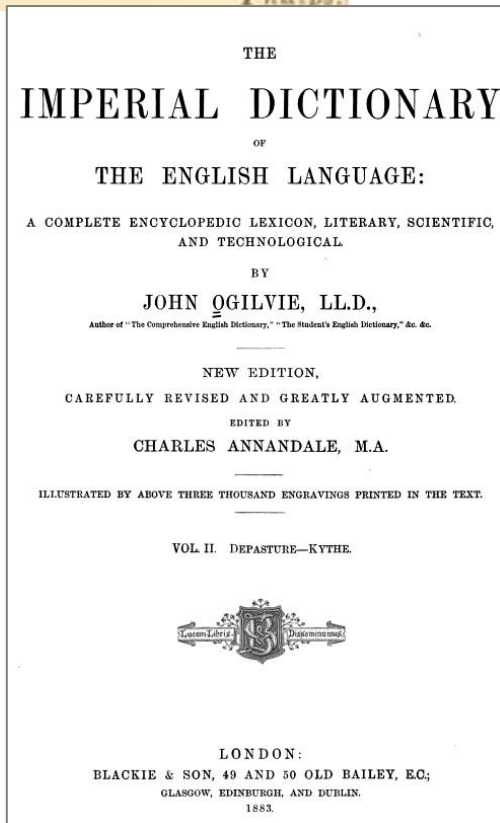
脚注2: 土木工事=道路・鉄道・河川・橋梁(きょうりょう)・港湾などの、土石・木材・鉄材などを使ってする建設工事。

# 米国のデジタルアーカイブから



ENGINEER, n. [Fr. *ingenieur*.] In the military art, a person skilled in mathematics and mechanics, who forms plans of works for offense or defense, and marks out the ground for fortifications. Engineers are also employed in delineating plans and superintending the construction of other public works, as aqueducts and canals. The latter are called *civil engineers*.  
2. One who manages engines or artillery.

Noah Webster, An American dictionary of the English language, 1828

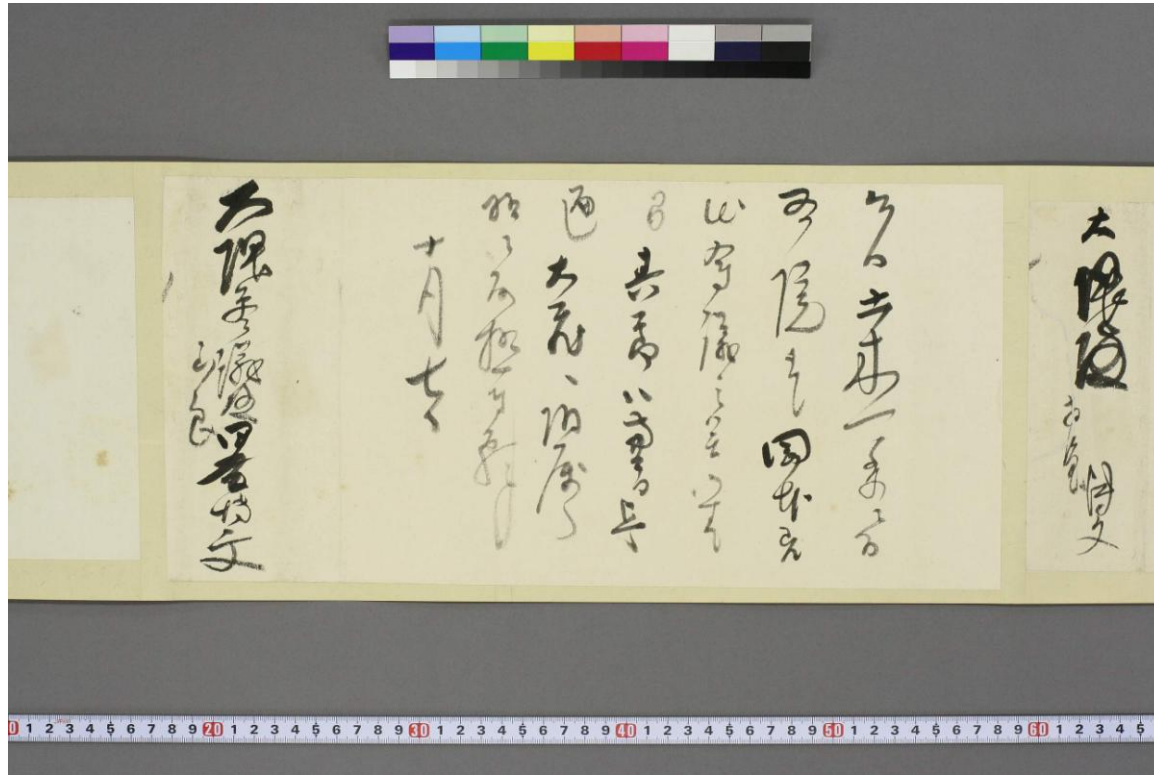


**Engineer** (en-jîn-êr'), n. [Formed on type of *charioteer*, *musketeer*, &c.] 1. A person skilled in the principles and practice of engineering, either civil or military. Military engineers form plans of works for offence or defence, and mark out the ground for fortifications. Engineers are also employed in delineating plans and superintending the construction of other public works, as the formation of roads and railways, the raising of embankments, mining operations, the formation of docks or artificial harbours, aqueducts, and canals. The latter are called *civil engineers*. A mechanical engineer practises the avocation of the machinist, in executing the presses, mills, looms, and other great machines employed in the arts and manufactures, particularly in constructing steam-engines, and the apparatus by which they are rendered available for giving motion to ships, carriages, or machinery.—2. One who manages military engines or artillery. [This is the spelling of *engineer* in the later folios and some manuscript editions of Shakspeare.]—3. An engine-driver; one who manages an engine; a person who attends to the machinery on board a steam-vessel.—4. One who carries through any scheme or enterprise by skill or artful contrivance; a manager.

John Ogilvie, The imperial dictionary of the English language, 1855, 1882

# デジタルアーカイブの活用例

## たとえば、明治初期の書簡



請求記号:イ14 B0057 0003

タイトル:伊藤博文書翰:大隈重信宛

出版事項:写, 書写年不明

形態:1通

内容等:卷子装 / 10月7日 / 土木一条  
右院会議に付大蔵へ附属の取極  
を請ふ

キーワード:古典籍 / 大隈文書 / 明治  
時代政治史 / 大隈重信 / 大隈関  
係文書

公開者:早稲田大学図書館

※ 年号がなく、一部判読できないため、  
史料性が落ちる

出典:早稲田大学古典籍総合データベース

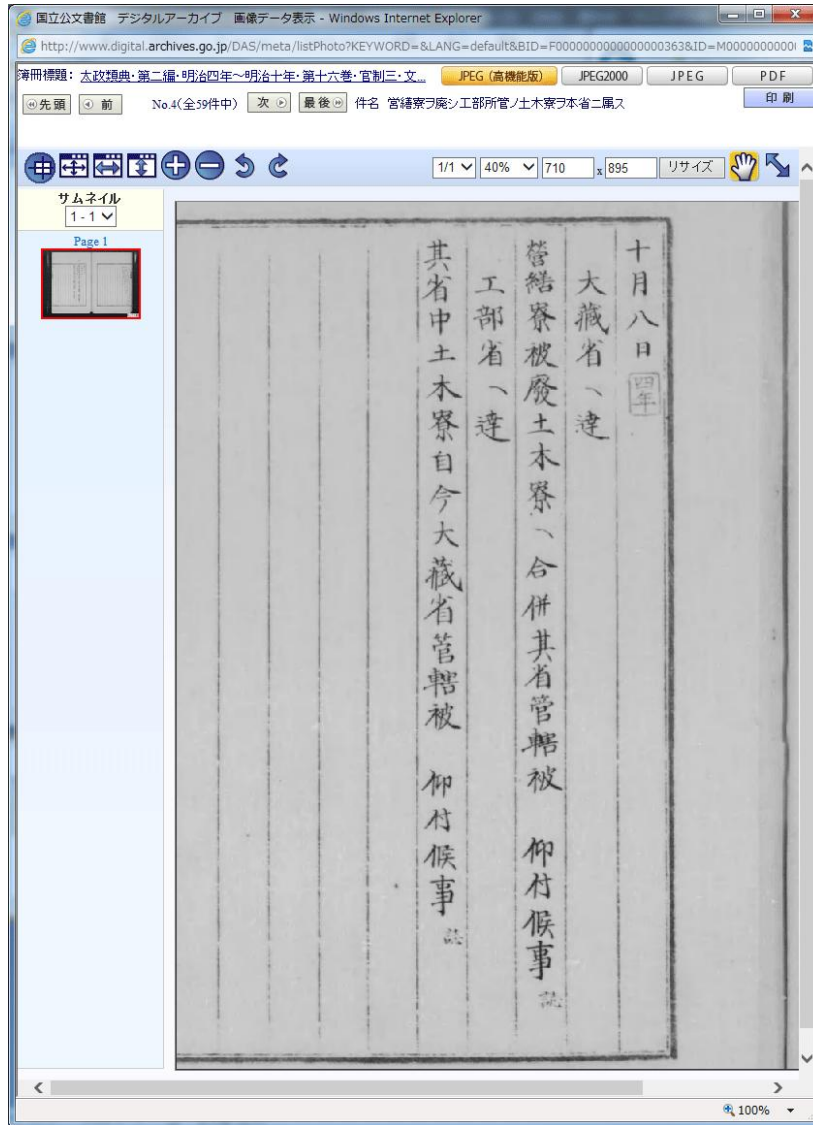
[http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/i14/i14\\_b0057\\_0003/index.html](http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/i14/i14_b0057_0003/index.html)



# 国立公文書館デジタルアーカイブで調べてみると



# 明治4年10月7日の書簡か



# 太政類典、法令全書によると

- 明治2年6月4日：民部官職制ヲ定ム／土木司 道路橋梁堤防等営作ノ事ヲ專管スルヲ掌ル
- 明治2年7月8日：職員令
  - 二官六省：神祇官、太政官、民部省、大蔵省、兵部省、刑部省、宮内省、外務省
  - 大久保利通(参議)、大隈重信(民部兼大蔵大輔)、伊藤博文(民部兼大蔵少輔)
- 明治3年閏10月20日：工部省ヲ置ク
- 明治4年7月9日：刑部省、弾正台ヲ廢シ司法省ヲ置ク
- 明治4年7月18日：大学ヲ廢シ文部省ヲ置ク
- 明治4年7月27日：民部省ヲ廢ス
  - 民部廢省ニ付元土木司事務ヲ工部省ニ属シ省中ニ土木司ヲ置ク
- 明治4年7月29日：太政官職制并事務章程ヲ定ム
  - 右院(省長次官會議)：大蔵省、兵部省、司法省、宮内省、外務省、工部省、文部省
- 明治4年8月8日：神祇官ヲ神祇省ト改ム
- 明治4年10月7日：伊藤博文(工部大輔) から大隈重信(参議兼大蔵卿)へ書簡
- 明治4年10月8日：工部省中土木寮大蔵省へ管轄替并大蔵省中營繕寮被廢土木寮へ合併
- 明治4年11月12日：岩倉使節団出国(岩倉具視、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文、山口尚芳)
- 明治6年9月13日：岩倉使節団帰国
- 明治6年11月10日：内務省ヲ置ク
- 明治7年1月9日：内務省中寮司ヲ置ク／他省ノ寮司及事務ノ内引受
  - 大蔵省中戸籍、土木、駅通ノ三寮及租税寮中地理、勸農ノ事務ヲ内務省へ／工部省中測量司内務省へ
  - 大久保利通(参議兼内務卿)、大隈重信(参議兼大蔵卿)、伊藤博文(参議兼工部卿)

# 現物入手しようと古書を探したら、 デジタルアーカイブより古いものが

